



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	山陽色素株式会社 微粒化こうば	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	#DIV/0!		#DIV/0!
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.0 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつつ

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.0
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥空地率80%以上 ⑥緑被率の水平投影面積率の合計が10%以上20%未満 	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用 	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型の衛生機器を使用 	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積比60%以上80%未満 ⑮隣棟間隔指標Rw0.5以上 	LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	得点	#DIV/0!
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰建築基準法に定められた耐震性を有する 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	得点	1.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高3.9m以上 ⑲壁長さ比率0.3以下 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮) 	Q-3 3 3.1 ⑳	⑳ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ⑲空地率80%以上 ⑲緑被率の水平投影面積率の合計が10%以上20%未満 	Q-3 1 2 3 3.2 ⑲	⑲ 生物環境の保全と創出 ⑲ まちなみ景観への配慮 ⑲ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) ⑲卓越風向に対する建築物の見付面積比60%以上80%未満 ⑲隣棟間隔指標Rw0.5以上 	LR-3 2 2.2 ⑲	⑲ 温熱環境悪化の改善

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	山陽色素株式会社 微粒化こうば	階数	地上3F
建設地	静岡県掛川市大淵字前浜1456-68	構造	S造
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年2月14日
敷地面積	17,712 m ²	作成者	片山友見
建築面積	1,121 m ²	確認日	
延床面積	3,221 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 「CASBEE静岡2016年版による評価結果」である。 敷地内は、敷地境界からの建物までの離隔距離を十分に確保し、周囲には緑地帯も設け、周辺環境に配慮した。建物は、階高を高くとり、可変性や開放感溢れる空間とした。		その他 0
Q1 室内環境 工場と事務所部分は区画し、遮音性を高めている。事務所部分は、外壁天井共に断熱材を充填し室温環境に考慮している。	Q2 サービス性能 事務所部分は、床はO.Aフロアとし、設備面からも利便性を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地廻りには植栽帯を確保し、隣地からの離隔距離を確保している。
LR1 エネルギー 室外機は、出来るだけまとめた位置に設置し、排熱に考慮した向きとした。省エネルギー(モデル建物法)で評価クリアしている。	LR2 資源・マテリアル 建築資材として、再生砕石を利用し考慮した。	LR3 敷地外環境 緑地の確保、駐車場の確保、その他法令条例に準じた設備としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される